

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 学習習慣が身に付いていない生徒が多く、学習の必要性や意義を理解させる必要がある。
- (2) 基礎学力の定着に課題がある生徒が多く、学校全体で授業内外における基礎基本を定着させるための取組が必要である。
- (3) 教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいるが、生徒に学習意欲を持たせるためには、さらに全教科等で授業改善のための組織的な取組が必要である。
- (4) 地域と学校の関係は密接であり、学習ボランティア等学力向上に向けた具体的な取組案について、地域と連携して取り組んでいくことも検討していく必要がある。

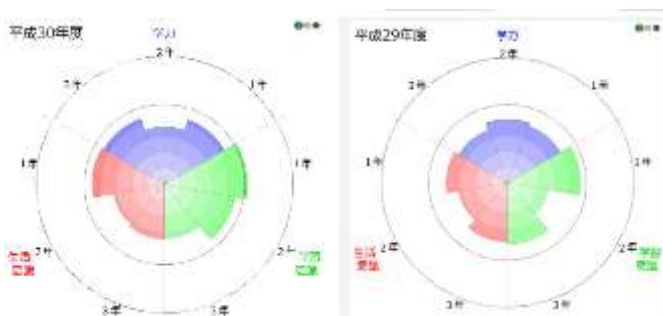
2 中期学校経営方針

学力向上に関する指導の目標・方針

「見通す・振り返る」学習活動を取り入れることを心がけ、「主体的に学習に取り組む態度」を育みます。研究と研修の効果的な実施により、授業力・教師力の向上を図り、学び続ける教職員を目指します。

- 子どもの興味・関心や特性等を理解し、それらに応じた指導方法の工夫改善を図る。
- 少人数指導やT・Tを効果的に活用し、基礎基本の充実を図る。
- 放課後の学習会の充実を図る。
- ICTや学校図書館の活用等の充実を図る。
- 子ども像の共有化、指導の工夫に向けた双方向の授業見学、合同授業研究会の実施

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年度の実態把握



全体的に、横浜市の平均を大幅に下回る状況である。学力層は学年を問わず市の平均よりもD層が5～25%程度多くなっている。新3年生は社会科、理科の学習意識が高く、市の平均を超えているが、学力は全ての教科が全体的に低い。特に基本的な知識、理解の観点で課題のある教科が多く、基礎力の向上が課題である。一方家庭学習の時間は市の平均を下回り、スマートフォンを操作する時間は市の平均より大幅に長いことを考えると、授業改善はもちろん、家庭学習の充実を図るための方策が必要になってくる。

新2年生は学習意識が高い。数学と英語を除き、学習意識が市の平均を上回っているが、新3年生同様、基礎学力向上の必要性がある。

全学年を通じて誰かの役に立ちたいという割合は市の平均より高いが、「自分には良いところがあると思うか」「自分のことが好きか」という質問は市の平均を下回ることから生徒の自己肯定感が低いことがうかがえる。

《教科学習の状況》

- 国語科：新2年生、新3年生ともに読む能力、知識・理解・技能の観点に課題がある。
- 社会科：学年を問わず知識・理解の観点に課題があるが、新3年生の思考・判断・表現の観点の数値は高くなっている。
- 数学科：学年を問わず学力層C,Dが全体の60%に達しており、基礎学力の定着に大きな課題がある一方、新2年生の数学的な見方、考え方の数値は高い。
- 理科：新2年生、新3年生ともに意識が高く、思考・表現の観点の数値が高くなっている。知識・理解の観点に課題がある。
- 外国語科：観点により大きな差異はないが、全体的に市の平均を下回っている。新2年生の表現の観点は市の平均に達している。

《経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）》

30年度の結果から、どの学年でも学力層で見るとD層の生徒が教科を問わず市平均よりも多く、基本的な内容を十分に身に付けていない生徒が多い。基礎基本の定着をはかるため、①教師による授業力向上のための組織的な取組②家庭学習の充実を目指す取組③生徒が進んで学習するように心に火をつける取組が必要である。

4 令和元年度 目標と具体的方策

令和元年度 目標

学習の意義や必要性を理解し意欲的に学習に取り組む生徒を育てるために、各教科等で「分かる授業」の工夫を行う。各教科の授業において、本日の目標を明確にする。

(1) 学校組織としての共通の取組

- **教科指導の充実**
学習の基本となる教科指導の充実を図るために、教師自身が授業の様子や他教員の授業を分析する機会を増やす。
- **生徒の意識向上**
生徒の学習に対する意欲を高めるために、各教科で目標達成シートを導入し、目的意識を持って授業に臨めるような環境をつくる。また、試験の結果を系統的に整理し、学習成果の変動を生徒自身が実感できるような試験計画表づくりを行う。
また、各教科で家庭学習を促すための指導を行い、家庭学習習慣の定着をはかる。
- **基礎学力向上**
四則計算や分数、常用漢字の習得を主な目的とした放課後の学習会を継続的に行い、基礎学力の向上を図る。

(2) 学年・教科等としての取組

<p style="text-align: center;">国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させるとともに、自らの学習状況を把握できるよう振り返りを行う。 ○生徒の学習意欲を高めるために、実生活に結び付いた言語活動の設定やグループ活動を工夫する。 	<p style="text-align: center;">社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関心をもって学習に取り組ませる為の資料提示の工夫を行う。 ○グループワーク等を取り入れ、自らの考えをもち、主体的に学習する態度を育成する。
<p style="text-align: center;">数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2、3学年で少人数とT、Tの授業を実施し、それぞれのニーズに応じた授業を実践していく。 ○家庭学習を定着させるために教科書・問題集等の基礎的な問題に取り組ませる。 	<p style="text-align: center;">理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験を中心とした授業構成とし、生徒の主体的な取組を後押しする。 ○実験考察の時間を十分に確保し、生徒の思考力・表現力を高める。
<p style="text-align: center;">音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合唱コンクールでは他教科領域の学習と関連付け、生徒がより主体的に学習できるようにする。 ○表現領域では繰り返し練習することで、表現力の向上をめざす。 	<p style="text-align: center;">美術</p> <ul style="list-style-type: none"> ○横浜版学習指導要領ベースカリキュラムに基づいた小中9年間を見通した題材配列を考える。 ○生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を追究できる魅力的な題材の提供を図る。
<p style="text-align: center;">技術・家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの既習事項や生活体験を把握し、生徒の資質等も考慮した上で題材設定を工夫する。 ○実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自ら問題解決できるような場面を工夫する。 	<p style="text-align: center;">外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○UNIT全体で子供に身に付けさせる力を明確にして基礎基本の定着を図り、活用する場面を設ける。 ○AETとの会話する場面を計画的に設定し、表現力の向上を図る。
<p style="text-align: center;">特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒たちの自治能力を育てるために、行事や学級での活動の充実を図る。 ○すべての活動を通して、他者を思いやる気持ちを育んでいく。(Fphの理念に基づいた活動) 	<p style="text-align: center;">総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科等との関連を図り、横断的で探究的な学習を通して、学び方やものの考え方を身につける。 ○体験で学んだことを整理分析することで、自己の将来について考えを深められるようにする。
<p style="text-align: center;">個別支援学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ○より実践的な活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ○個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。 	<p style="text-align: center;">保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。</p>